

2021年度日本財団助成事業

岩手県・宮城県から避難入所した 要介護高齢者の帰郷支援(covid19)

活動報告書



2022年4月
社会福祉法人 弘前豊徳会

はじめに

2011年（平成23年）3月11日、午後2時46分に起こった東日本大震災から、11年以上が経過。

震災直後、津波・地震被害や福島第一原発事故の影響から、被災地の介護サービスにおける地域資源が激減し、要介護者が住み慣れた地域で必要とする介護を受けることが極めて困難な事態が発生。この緊急事態を受け、青森県弘前市にて高齢者福祉施設を運営する当法人は、被災地からの介護老人保健施設等への避難受入を実施し、支援を継続してきた。

震災から数年も経過すれば、広域での支援の必要性は限りなくゼロに近づくであろうと考えていたが、予想に反し、各地より「まだ広域での入所支援は行っているか」という相談が、元号が令和となった現在になっても途絶えることはなかった。こうして岩手県・宮城県・福島県から受け入れた高齢者は、11年間で延べ204名にも及ぶ。

各地で受入支援を行ううち、帰郷を望みながらもそれが叶わず、当法人施設または青森県弘前市内の病院で亡くなる方が、総受入者数のうち約4割（退去者数のうち約6割）にのぼった。加えて、令和4年3月末現在も50名の避難入所者が当法人施設「サンタハウス弘前」にて生活されているが、施設の定員超過を認める「被災地特例措置」が終了となる可能性が示唆されており、その場合、避難入所者の行き場がなくなってしまう問題も抱えていた。

そこで当法人は2018年（平成30年）から、早期に帰郷問題を解決することを目的とした「帰郷支援事業」を提案し、実施してきた。

この報告書は、2021年度日本財団の助成を受けた「岩手県・宮城県から避難入所した要介護者等の帰郷支援事業（covid19）」に関する活動をまとめたものである。

震災の爪痕は、11年経った現在も様々な形で現れている。年月を経る毎に問題はより深く潜み、複雑化し、解決が困難である。そしてまた、当法人の帰郷支援活動においても、より良い支援や活動のためとはいえ、より個（点）に特化した内容に変わりつつあることで、一連の支援活動が区切りを迎えている。

ご高覧いただく皆様には、表現しきれない避難入所者の望郷に思いを馳せていただければ幸いである。

目 次

第1章 事業概要と背景

1 事業の目的と概要	1
2 事業の背景	2

第2章 事業報告

1 事業に用いる資料の概要	8
2 被災地訪問活動の実施	
1) 活動の概要	1 1
2) 実施状況	1 1
活動一覧	1 2
訪問先	1 3
3 交流会の実施	
1) 活動の概要	2 1
2) 実施状況	2 1
①～避難先住民と交流しよう～オンラインコンサート	2 1
②～ふるさとの人と語り合おう～気仙沼市民のリモート交流会	2 4
③～ふるさとの人と交流しよう～チンドン寺町一座がやってくる！	3 0
④～避難先地元住民と交流しよう～オンラインコンサート（中止）	3 9
⑤～ふるさとの人と交流しよう～バルーンアートパフォーマンス	3 9
4 面会・面談の実施	
1) 活動の概要	4 5
2) 実施状況	4 6
5 事業の成果と課題	
1) 事業の柱に関する成果と課題	4 8
2) 事業に関するアンケート	5 0

第1章 事業概要と背景

1 事業の目的と概要

本事業は2018年度から当法人が実施している「帰郷支援事業」の一環で、東日本大震災以降、岩手県、宮城県、福島県から青森県弘前市の当法人施設に避難入所中の要介護高齢者が故郷または希望する故郷近隣の市町村にある施設へ帰郷できるよう、支援する取組である。2021年度日本財団助成事業「岩手県・宮城県から避難した要介護高齢者の帰郷支援（covid19）」における目的、事業内容と目標は以下のとおり。

目的

<中長期目的>

リモートによる以下内容の実施体制を整える。

- ・岩手県・宮城県の被災地施設の現状をリアルタイムに把握する。
- ・帰郷調整が可能となるよう、避難入所者の状態を資料化する。
- ・避難入所者と家族・親族・被災地域・避難元地域とのつながりの強化のためのイベントの実施

<最終目的>

- ・避難入所者の一日でも早い地元への帰郷
- ・避難入所者がコロナ禍でもいきいきと過ごせるための環境を整える。

事業内容と目標

1. 帰郷準備活動の実施

時 期：2021年4月～2022年2月

対 象：岩手県・宮城県からの避難入所者（計44名）

内 容：a.避難入所者の説明資料の作成

b.家族とのリモート面会

目 標：被災地訪問調査活動を行う（8回）

事業概要パンフレットを作成し、被災地域へ配布する（500部）

2. 帰郷支援活動の実施

時 期：2021年4月～2022年3月（計8回）

対 象：岩手県、宮城県沿岸部の介護施設等

内 容：a.受入候補施設への訪問

b.受入施設への帰郷調整の実施

目 標：被災地域の施設とリモートで実態調査を行う体制を整える

避難入所者の家族・親族とリモートでのコミュニケーションの場をつくる

3. リモート地域交流イベントの実施

時 期：2021年4月～2022年2月（計4回）

場 所：オンライン

参加者：避難入所者、受入施設等

目 標：リモートで避難入所者と被災地をつなぐイベントを開催する（4回／年）

2 事業の背景

1) 被災地支援の背景

当法人は震災直後、被災地域の1千以上の病院・施設等に受入が可能である旨を記載したFAXを送信。法人内での体制整備や行政との調整を重ね、2011年4月11日、宮城県の気仙沼市立病院から5名を受け入れたのを皮切りに、10年以上広域受入活動を行ってきた。

① 被災地訪問、調査、受入活動の概要



震災から2か月後、避難所や移転した福祉関係事務所を直接見て回ること
で情報が行き渡っていないことを把握した当法人は、以降、定期的に被災地
訪問を繰り返すこととなった。初年度は400か所以上を訪問している。

② 受入活動の概要

自己資金で支援活動、調査活動を行っていたが、同時に各種助成金へ応募
申請したところ、採択となり、より広域に支援の輪を広げることが可能とな
った。震災から数年もすれば支援は不要になると思われたが、受入要請が途
絶えることはなく、時間の経過とともに介護人材不足や家庭内虐待等、目に
見えにくいところで新たな課題が発生し、より福祉の手が必要となっていた。
身寄りのない方、医療依存度の高い方の受入は被災地でも当法人でも大変難
しいものであったが、各地の行政に協力いただいたほか、当法人で医療対応
を可能にする等対応し、被災地域の方々にとってサントハウス弘前が一つの
選択肢として認知されるに至った。

採択された助成金については「④ 支援活動概要年表」参照。

令和4年3月31日現在の受入者数

	市町村	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	計	総計
岩手県	宮古市	2	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	70
	山田町	2	2	0	1	1	2	0	0	1	0	0	9	
	大槌町	1	0	1	0	0	0	3	0	0	0	0	5	
	住田町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	
	釜石市	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	
	大船渡市	2	1	0	2	12	9	7	4	1	0	3	41	
	陸前高田市	0	0	0	0	1	2	1	0	0	0	0	4	
	一関市	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	
宮城県	気仙沼市	9	0	1	4	14	16	9	6	9	4	5	77	80
	石巻市	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
	角田市	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	
	丸森町	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
福島県	相馬市	0	0	1	2	7	4	5	1	2	0	0	22	54
	南相馬市	3	1	3	2	4	9	4	2	2	1	0	31	
	飯舘村	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	
計		21	8	6	13	39	43	29	14	16	5	10	204	

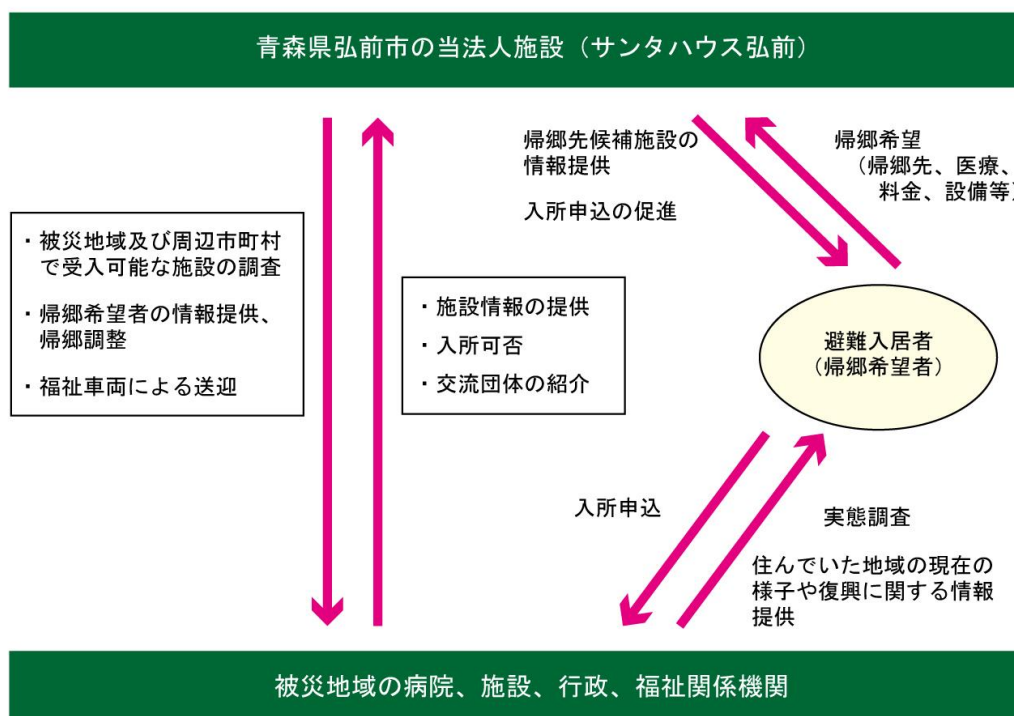
③ 帰郷支援事業の概要

受入活動の長期化とともに、帰郷できず当法人施設で亡くなる方も増え、帰郷の実現・早期化のための支援が必要であると判断した当法人は、2018年、帰郷支援事業を開始することとなった。※活動開始時の2018年4月時点で、退去者89名のうち3割にあたる27名が当法人施設で亡くなっている。

本事業は、被災地域及びその周辺市町村の医療福祉機関に、どれだけの受け皿があるか調査することから始まった。岩手県・宮城県・福島県の沿岸地域にある介護福祉施設を中心に、約600カ所へ受入可否に関するアンケートを郵送したところ、ほとんどの施設において数十～数百人単位で待機者がおり、「現在だけで手いっぱいのため受入は行わない」と回答した施設もあった。当法人は「受入可能」と回答があった施設へ、避難入所者の情報提供と帰郷条件のマッチングによる帰郷調整を実施。以降、施設の訪問・調査を繰り返しながら情報提供とマッチングを継続している。

受入活動と同様に帰郷支援においても、年月の経過とともに新たな課題が生じ、特に2019年から流行した新型コロナウイルス感染症は、活動の停滞を余儀なくされた。当法人は2021年度日本財団助成事業を活用し、コロナ禍でも活動できる体制づくり（直接訪問、オンライン面談）や、避難入所者への心の支援活動（交流会）を行った。

帰郷支援概要図



帰郷実績 令和4年3月31日現在

	2018年度 (平成30年度)	2019年度 (平成31年度)	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)
岩手県	2	5	2	0
宮城県	0	0	0	0
福島県	2	2	1	0
計	4	7	3	0

④ 支援活動概要年表

2011年（平成23年）

3月11日	東日本大震災発生
3月21日	1千件を超えるFAXを送信 「最大50名（当時）受入が可能」「現地まで当法人の福祉車両で迎えが可能」と記載した文書を岩手県・宮城県・福島県の病院、居宅介護支援事業所、社会福祉協議会、福祉施設等に直接FAX。7割が不通であった。
4月11日	被災地から最初の受入 気仙沼市立病院（宮城県）の入院患者等5名を一度に受入。
4月12日 ～4月20日	災害ボランティア職員派遣 青森県高齢福祉保健課に事前登録した職員（男性2名、女性1名）のうち、男性2名の派遣依頼があり、岩手県大槌町で入浴支援等を行った。
5月24日	受入の取組に関する周知活動開始 被災地のインフラ復旧が遅れ、避難所や居宅介護支援事業所に情報が少ないということがわかり、直接届けるべく、被災地に直接赴く活動が始まった。以降、定期的に被災地を訪問することとなる。

2012年（平成24年）

3月10日	日本財団福祉車両 納品 被災地の要介護者の移送を安全に実施する目的で応募申請したところ、採択となった。この車両は現在も弘前市と被災地を往復しており、受入時・帰郷時に活躍している。
6月1日 ～2013年 3月31日	独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業（WAM）「被災地要介護者の移送・遠隔面会支援事業」 ①被災地～弘前間の福祉車両による遠距離移送支援 ②遠隔面会サービス

9月1日 ～2013年 9月1日	公益財団法人JKA補助事業「平成24年度（復興支援）被災地域の調査活動補助事業」 被災地から他地域へ避難された高齢者を取りまく環境・支援に関する調査活動。
------------------------	--

2013年（平成25年）

4月 1日 ～2016年 6月30日	応援職員派遣 被災地域の新たな問題として、介護職員人材不足が深刻となっていた。社会福祉法人 堤福社会（岩手県大槌町）と連携を取っていた当法人は、堤福社会が運営する特別養護老人ホーム「らふたあヒルズ」へ3名の介護職員を交代で派遣した。
--------------------------	---

2014年（平成26年）

8月 1日 ～2015年 3月31日	独立行政法人福祉医療機構 平成26年度社会福祉振興助成事業（WAM）「被災地要介護高齢者広域避難・地域移行支援事業」 ①被災地支援活動の周知 ②被災地からの受入に係る無償移送
11月15日 11月22日	公益財団法人 日本社会福祉弘済会 社会福祉助成事業 災害対策セミナー「東日本大震災に学ぶ」 被災地支援活動を通じて連携を持った被災市町村の福祉医療関係者6名を講師に招き、2日に渡り実施。

2015年（平成27年）

9月26日	公益財団法人日本社会福祉弘済会 社会福祉助成事業 災害対策セミナー「災害現場経験者から、あなたへ」 前年度のセミナーから要望を受け、実践的な内容で開催。
-------	--

2018年（平成30年）

6月 1日 ～2019年 3月31日	帰郷支援事業の開始 平成30年度みやぎ地域復興支援助成金 平成30年度福島県県外避難者帰還・生活再建支援補助金 「青森県弘前市の介護施設に避難入所した要介護者等に係る帰郷支援事業」 ①避難入所者・家族に帰郷希望（帰郷先、希望料金等）に関するアンケートを実施 ②被災地域の病院・福祉施設等に医療体制、受入要件、利用料金等を調査するアンケートを実施
8月1日 ～2019年 3月31日	③①と②をマッチングし、帰郷調整を進める ④交流会の実施

	宮城県、福島県からの避難入所者がそれぞれ対象となっており、岩手県の対象者については自主財源で実施している。
--	---

2019年（令和元年）

6月 1日 ～2020年 3月31日	平成31年度みやぎ地域復興支援助成金 「青森県弘前市の介護施設に避難入所した要介護者等に 係る帰郷支援事業」 平成30年度事業でのアンケート結果を基により具体的な資料の作成とマッチング、帰郷調整を実施。 岩手県、福島県からの避難入所者は自主財源で実施。
--------------------------	--

2020年（令和2年）

6月 1日 ～2021年 3月31日	令和2年度みやぎ地域復興支援助成金 令和2年度福島県県外避難者帰還・生活再建支援補助金 「青森県弘前市の介護施設に避難入所した要介護者等に 係る帰郷支援事業」 ①交流会の実施 ②被災地訪問活動の実施 ③帰郷のための判断材料の作成 岩手県からの避難入所者は自主財源で実施。
--------------------------	--

2021年（令和3年）

4月 1日 ～2022年 4月30日	2021年度日本財団助成「岩手県・宮城県から避難した 要介護者の帰郷支援（covid19）」本報告書参照 ①被災地訪問活動の実施 ②訪問に係る資料の作成 ③交流イベントの実施 岩手県・宮城県からの避難入所者対象。 令和3年度福島県県外避難者帰還・生活再建支援補助金
6月 1日 ～2022年 3月31日	「青森県弘前市の介護施設に避難入所した要介護者等に 係る帰郷支援事業」 ①被災地訪問活動の実施 ②訪問に係る資料の作成 ③交流イベントの実施 福島県からの避難入所者対象。

第2章 事業報告

1 事業に用いる資料の概要

資料の作成と配布

本事業において作成したパンフレット及び資料は以下の通り。

① 事業概要周知用パンフレット（1種）

体裁：A3コート紙2つ折り（4ページ）両面カラー

作成方法：当法人で入稿データ作成、ネットプリント業者に発注

作成部数：500部

備考：帰郷支援事業の流れがわかるデザインを目指した。紙面は「事業の背景」、事業の大きな柱「Ⅰ 帰郷準備活動の実施」「Ⅱ 帰郷支援活動の実施」「Ⅲ 地域交流イベントの実施」を説明する内容となっている。裏表紙には避難入所者とその家族を対象とした、オンライン面会の流れを記載。



表紙

裏表紙

弘

被災地の一部地域では、未だ著しい介護職員不足や医療の不足が見られ、介護が必要な高齢者は地元の施設に入所できず、かといって近隣市町村の施設も待機者が多くすぐには入所が難しいという状態です。そこで、地元施設の空きができるまでの間、当法人施設へ受入を行っています。



【2011年4月、最初の広域受入】



平成30年度備前支援事業において帰郷したSさん。
【2019年2月、福島県相馬市に帰郷】

長

入国者とマッチングを図るものです。この取組で、延べ14名の帰郷につなげました。

しかし、コロナ禍で帰郷活動が停滞し、54名が故郷に帰る日を待ち望んでいます。活動を停滞させることなく継続するために、令和3年度は日本財団助成(※)を受け活動してまいります。

※本助成は、岩手県・宮城県から避難入所した高齢者41名が対象です

I

また、被災地域の施設に関する情報共有とコミュニケーションを目的に、ご家族とのオンライン面会を実施します。

①オンライン面会



基本情報の作成

フェイスシート化

要介護状態



ケアの

映像資料の作成 ➡ DVD化 または MP4に変換

姓名: _____ 性别: _____ 年龄: _____ 职业: _____
 地址: _____ 电话: _____
 电子邮箱: _____
 邮编: _____
 单位: _____
 日期: _____

1. 生活風景
2. 歩行状態
3. 起き上がり・立ち上がり
4. 衣類の着脱
5. 移乗の動作確認
6. 排泄・排尿の可動域確認
7. 麻痺・拘縮等の可動域確認
8. 褥瘡・皮膚疾患の状態
9. 食事風景
(介助状況、食事形態、嚥下、とろみの有無)
10. トイレ動作・オムツ有無
11. 創傷（褥瘡、擦傷、湯火傷等）

帰郷が決まった際には帰郷先施設まで無償で送迎を行います。

＜遠隔面談のイメージ＞

DVDでは無いから



立って歩けていた
が、今歩くことは
できますか？

そちらの天気は？
弘前でのお暮らしはどう
ですか？



お名前は？
出身地はどこですか？
今は何月か答えられますか？

- 【対象施設】 ・特別養護老人ホーム ・介護老人保健施設 ・有料老人ホーム
・サービス付き高齢者向け住宅 ・グループホーム ・介護療養病床 ・医療機関
- 【対象地域】 ・宮城県全域、沿岸市町村（気仙沼市、南三陸町、石巻市、女川町 等）
・岩手県全域、沿岸市町村（陸前高田市、大船渡市、一関市、釜石市、住田町 等）

故郷に長期間帰ることが叶わない入居者様のため、故郷のイベント団体とオンラインでつながり、イベントを実施します。また、避難先である青森県弘前市での生活が豊かになるよう、弘前市民とのイベントも実施します。



② フェイスシート

体 裁：A4片面2枚モノクロ

作成方法：当法人のフォーマットに則り作成。

作成部数：避難入所者1名につき約20部、計約80部

備考：個人の要介護状態、医療依存度、服薬内容、ケアの内容等を記載。訪問先施設に受入可否判断を委ねる入所判定材料である。

[illegible][illegible]

※個人情報のため
匿名記載

③ 映像資料の作成

体 裁：DVDまたはMP4

作成方法：法人事務職員による動画編集ソフト

作 成 数：避難入所者動画1本、交流会動画4本

備 考：②のフェイスシートで受入が具体化した場合に、最終判断として作成し、訪問先施設に提示する入所判定資料である。本来ならば被災地施設の職員が直接面会し避難入所者本人の状態確認を行うが、青森県の当法人施設へ来所が難しいため、一本の動画にまとめ提示するものである。撮影内容は以下11項目。

1. 生活風景
2. 歩行状態
3. 起き上がり
4. 衣類の着脱
5. 移乗の動作確認
6. 寝返り・座位保持の可否
7. 麻痺・拘縮部の可動域
8. 褥瘡・皮膚疾患の状態
9. 食事風景及び内容
10. トイレ動作
11. 認知機能（対話）

このほか、交流会の様子なども動画資料として作成し、ユニット職員または希望した避難入所者個人のほか、被災地関係機関に配布。被災地域で活躍する団体にも資料として提供した。



避難入所者の状態確認動画(MP4)



令和3年12月18日交流会動画(MP4)

④ オンライン面会用 機器説明書(1種)

体 裁：A4コート紙(2ページ)両面カラー

作成方法：当法人でデータ作成、印刷

作成部数：10部

備考：帰郷準備活動の一環として、オンライン面会で使用するタブレットやポケットWi-Fi等を無料でレンタルできる体制を整えた。機器操作のわからないご家族に対し、簡単に操作できることを示すための説明資料を作成。機器レンタルの需要が不透明であったため、要望に応じ都度、発行することとした。

まずお読みください

- 内容物の確認**
 - ・本説明書（裏面あり） 1枚
 - ・タブレット 1台
 - ・ルーター 1台
 - ・伝票（返送用）1枚

返送の時に使いますので、段ボール箱と梱包材は捨てずに保管してください。
- 電源を入れる**

電源ボタンを4秒以上長押しします。
- Wi-Fiマークが出たか確認する。**

タブレット画面の右上をご覧ください。
※ルーターの起動に時間がかかると、マークがすぐに出てこない場合があります。
- 面会日時まで電源を切って、保管する。**

電源ボタンを4秒以上長押しして切ります。タブレットは「スライドして電源をオフにする」と表示されるのでスライドします（指で左から右に動かします）。
※ルーター、タブレットは精密機械につき、大切にお取り扱いいただきますよう、お願いします。

確認は以上です！

面会当日の操作は裏面へ→

面会当日

- 面会時間の10分前までにルーターとタブレットの電源を入れます。

タブレットは横置きでも縦置きでも使えますが、面会の際は横置きがおすすめです。
カバーをこのように折り曲げ、立ててお使いください。
- 「弘前豊徳会 no2」から着信が来たら（音が鳴ります）、
通話ボタン☑️を指でタッチ。
電話につながります。
- 面会（通話）が終了したら、届いた時と同じように梱包し、同封の伝票を使って返送します。※同封の返送用伝票はゆうパックです。最寄りの郵便局へ持ち込みください。

困ったときは

画面が真っ暗！何も映らない。 → オフ → オン タブレットのカメラはここにあります。カメラの前に貼る物はありませんか？	カメラがオフになっていませんか？指でタッチしてオンにしましょう。
向こうの音が聞こえない。自分の声が届いていない。 → 消音 → 消音解除 音量を調節してみましょう。タブレットを横にした時は左ボタンが「大」です。	ミュート（消音）になっていませんか？指でタッチして解除しましょう。

お客様のご負担で箱と梱包材をご用意ください。
※精密機械ですので箱と梱包材を数回確認し、箱の中で動かないよう固定してください。もしくは、タコネコヤマトであればタブレット専用の箱（薄型精密機械 BOX 260 円）が販売されています。
伝票を失くした場合でもお客様の送料負担はありません。着払いで弘前豊徳会までお送りください。
▶ 036-8311 青森県弘前市大川字中根川 18-10

どうしても操作がわからない時は、弘前豊徳会 ☎0172-99-1255 までお電話ください！

表面

裏面

2 被災地訪問活動の実施

1) 活動の概要

被災地の地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、特別養護老人ホーム、病院等の関係機関のほか、交流先団体等にも訪問した。

活動期間中に計15回の被災地訪問活動を実施し、計164件訪問した。

2) 実施状況

被災地訪問担当職員2名が概ね2泊3日の行程で被災地訪問活動を実施。同時に実施した福島県県外補助金事業（福島県からの避難入所者対象の事業）による活動と、本事業による活動（岩手県・宮城県からの避難入所者対象の事業）とを併せ、福島県・宮城県・岩手県を効率よく訪問。新型コロナウイルス感染

症の状況を見て、行程を日帰り及び1泊2日に変更したり、訪問先を絞り込んだりする等の対応を取った。新型コロナウイルス感染症対策のため訪問を断念せざるを得ず、電話で情報交換のみとなった施設も多い。(活動一覧には含まず)

訪問活動は、活動する職員2名が2回のワクチン摂取を完了し2週間経過後の、7月上旬から実施された。

活動一覧

No.	日 程	訪 問 先	件数
①	2021年 7月 7日(水) ～ 8日(木)	岩手県大船渡市 宮城県気仙沼市	12件
②	2021年 8月 5日(木) ～ 6日(金)	岩手県大船渡市 宮城県気仙沼市	9件
③	2021年 9月 1日(水) ～ 3日(金)	岩手県一関市 宮城県気仙沼市	6件
④	2021年10月 6日(水) ～ 8日(金)	岩手県大船渡市 宮城県気仙沼市	10件
⑤	2021年11月11日(木) ～12日(金)	岩手県陸前高田市、大船渡市 宮城県気仙沼市	14件
⑥	2021年12月 2日(木) ～3日(金)	岩手県一関市、大船渡市、陸 前高田市 宮城県気仙沼市	17件
⑦	2021年12月22日(水) ～24日(金)	岩手県大船渡市、陸前高田市 宮城県仙台市、気仙沼市	19件
⑧	2022年 1月12日(水) ～13日(木)	岩手県一関市、大船渡市、陸 前高田市 宮城県気仙沼市	15件
⑨	2022年 1月18日(火) ～19日(水)	岩手県一関市、陸前高田市 宮城県気仙沼市	11件
⑩	2022年 2月 2日(水) ～4日(金)	岩手県盛岡市、釜石市、大船 渡市、住田町	7件
⑪	2022年 2月24日(木) ～25日(金)	宮城県気仙沼市	9件
⑫	2022年 3月10日(木)	宮城県気仙沼市	5件
⑬	2022年 3月17日(木) ～18日(金)	岩手県一関市、大船渡市、釜 石市	11件

		宮城県南三陸町、気仙沼市	
⑭	2022年 3月23日(水)	岩手県住田町	4件
⑮	2022年 3月29日(火) ～31日(木)	岩手県住田町 宮城県気仙沼市	15件

訪問先

①日程 2021年 7月 7日(水)～ 8日(木)

訪問先 12件

県・市町村	訪問先
【岩手県】 大船渡市	大船渡市役所地域福祉課
	大船渡市地域包括支援センター
	大船渡市役所長寿社会課
	岩手県立大船渡病院
	山田大名の里
【宮城県】 気仙沼市	気仙沼市立病院
	さくら居宅介護支援事業所
	気仙沼市保健福祉部 社会福祉課 生活保護係
	気仙沼市 高齢介護課
	中央地域包括支援センター
	鹿折・唐桑地域包括支援センター
	土筆の里



岩手県立大船渡病院

②日程 2021年 8月 5日(木)～ 6日(金)

訪問先 9件

県・市町村	訪問先
【岩手県】	大船渡市役所 長寿社会課

大船渡市	岩手県立大船渡病院
【宮城県】 気仙沼市	山田大名の里
	医療法人順化会 猪苗代病院
	気仙沼市役所 高齢介護課
	さくら居宅介護支援事業所
	医療法人くさの実会 光ヶ丘保養園
	鹿折・唐桑地域包括支援センター
	土筆の里



鹿折・唐桑地域包括支援センター



大船渡市長寿社会課、地域包括支援センター

③日 程 2021年 9月 1日（水）～ 3日（金）

訪問先 6件

県・市町村	訪 問 先
【岩手県】 一関市	一関市役所福祉課
	介護老人保健施設 一関ナーシングホーム
	岩手県立千厩病院
	一般社団法人ほまれの会 ペコラビレジ
【宮城県】 気仙沼市	本吉地域包括支援センター
	津谷居宅介護支援事業所

④日 程 2021年10月 6日（水）～ 8日（金）

訪問先 10件

県・市町村	訪 問 先
【岩手県】 大船渡市	大船渡市役所 地域福祉課
	岩手県立大船渡病院
	大船渡市役所 長寿社会課
【宮城県】	医療法人順化会 猪苗代病院

気仙沼市	医療法人くさの実会 光ヶ丘保養園
	一景島在宅介護支援センター（居宅）
	気仙沼市保健福祉部 社会福祉課 生活保護係
	気仙沼市産業部 おかえりモネプロジェクト推進室
	みずなし介護センター ケアマネステーション まつかわ
	避難入所者家族自宅



医療法人順化会 猪苗代病院（２０２１年１１月３０日閉院）

⑤日 程 ２０２１年１１月１１日（木）～１２日（金）

訪問先 １４件

県・市町村	訪 問 先
【岩手県】 陸前高田市 大船渡市	陸前高田市地域包括支援センター
	岩手県立高田病院
	避難入所者自宅
	岩手県立大船渡病院
	気仙指定居宅介護支援事業所
	大船渡市地域包括支援センター
【宮城県】 気仙沼市	階上・面瀬地域包括支援センター
	おおしまハーティケアセンター
	医療法人くさの実会 光ヶ丘保養園
	中央地域包括支援センター
	気仙沼市復興祈念公園
	みずなし介護センター ケアマネステーション まつかわ
	避難入所者自宅

	鹿折・唐桑地域包括支援センター
--	-----------------



おおしまハーティケアセンター



気仙指定居宅介護支援事業所

⑥日 程 2021年12月2日（木）～3日（金）

訪問先 17件

県・市町村	訪 問 先
【岩手県】 一関市 陸前高田市 大船渡市	岩手県立千厩病院
	避難入所者自宅（家族面談）
	岩手県立高田病院
	高寿園指定居宅介護支援事業所
	陸前高田市地域包括支援センター
	大船渡市役所長寿社会課
	岩手県立大船渡病院
	社会福祉法人 三陸福祉会
【宮城県】 南三陸町 気仙沼市	南三陸町 南三陸病院
	山田大名の里
	津谷居宅介護支援事業所
	本吉地域包括支援センター
	気仙沼市立病院
	ほっとケア気仙沼（居宅）
	一景島在宅介護支援センター（居宅）
	恵風荘
	広域介護サービス気仙沼

⑦日 程 2021年12月22日（水）～24日（金）

訪問先 19件

県・市町村	訪 問 先
-------	-------

【岩手県】 陸前高田市 大船渡市	土筆の里
	陸前高田市地域包括支援センター
	岩手県立大船渡病院
	富美岡荘／百年の里
	大船渡市役所 長寿社会課
	大船渡市地域包括支援センター
	大船渡市役所 地域福祉課
【宮城県】 仙台市 気仙沼市	医療法人明理会 西仙台病院
	気仙沼市立病院
	気仙沼青年会議所
	気仙沼移住・定住支援センターMINATO
	医療法人くさの実会 光ヶ丘保養園
	避難入所者自宅（家族面談）
	かねせん蒲鉾店（気仙沼青年会議所）
	気仙沼市役所 高齢介護課
	中央地域包括支援センター
	気仙沼市保健福祉部 社会福祉課 生活保護係
	避難入所者自宅（弔問）
	鹿折・唐桑地域包括支援センター

⑧日 程 2022年 1月12日（水）～13日（木）

訪問先 15件

県・市町村	訪 問 先
【岩手県】 一関市 陸前高田市 大船渡市	岩手県立千厩病院
	陸前高田市地域包括支援センター
	東海新報社
	かもめテラス（さいとう製菓）
	避難入所者自宅（家族面談）
	岩手県立大船渡病院
	大船渡市役所 長寿社会課
	大船渡市地域包括支援センター
	一般社団法人ほまれの会 ペコラビレジ
【宮城県】 気仙沼市	階上・面瀬地域包括支援センター
	気仙沼市立病院
	気仙沼市役所高齢介護課

	中央地域包括支援センター
	医療法人くさの実会 光ヶ丘保養園
	かねせん蒲鉾店（気仙沼青年会議所）



陸前高田市地域包括支援センター（市役所内）

⑨日 程 2022年 1月18日（火）～19日（水）

訪問先 11件

県・市町村	訪 問 先
【岩手県】 一関市 大船渡市	一関市役所 福祉課
	岩手県立千厩病院
	高寿園指定居宅介護支援事業所
	大船渡市役所地域福祉課
【宮城県】 気仙沼市	広域介護サービス気仙沼
	土筆の里
	医療法人くさの実会 光ヶ丘保養園
	山田大名の里
	本吉地域包括支援センター
	避難入所者親戚宅
	鹿折・唐桑地域包括支援センター

⑩日 程 2022年 2月 2日（水）～4日（金）

訪問先 7件

県・市町村	訪 問 先
【岩手県】 盛岡市	盛岡市役所
	沿岸広域振興局（釜石）

釜石市 大船渡市 住田町	岩手県立大船渡病院
	すみだ荘指定居宅介護支援事業所
【宮城県】 気仙沼市	気仙沼市立病院
	みやぎ介護センター気仙沼営業所
	避難入所者家族面談

⑪日 程 2022年 2月24日（木）～25日（金）

訪問先 9件

県・市町村	訪 問 先
【宮城県】 気仙沼市	気仙沼市立病院
	階上・面瀬地域包括支援センター
	避難入所者家族面談（3件）
	気仙沼市役所 高齢福祉課
	中央地域包括支援センター
	リバーサイド春圃
	グループホーム村伝さいち

⑫日 程 2022年 3月10日（木）

訪問先 5件

県・市町村	訪 問 先
【宮城県】 気仙沼市	中央地域包括支援センター
	階上・面瀬地域包括支援センター
	避難入所者家族面談
	グループホーム村伝
	気仙沼市立病院

⑬日 程 2022年 3月17日（木）～18日（金）

訪問先 11件

県・市町村	訪 問 先
【岩手県】 一関市 大船渡市 釜石市	一関市役所
	ソエル花泉介護相談センター
	岩手県立大船渡病院
	沿岸広域振興局（釜石）
【宮城県】	南三陸町 南三陸病院

南三陸町 気仙沼市	気仙沼市役所
	医療法人くさの実会 光ヶ丘保養園
	気仙沼地方振興事務所
	土筆の里
	津谷居宅介護支援事業所
	気仙沼市立本吉病院

⑭日 程 2022年 3月23日（水）

訪問先 4件

県・市町村	訪 問 先
【岩手県】 住田町	住田町役場 保健福祉課
	住田町地域包括支援センター
	特別養護老人ホーム すみた荘
	元大船渡病院関係者宅

⑮日 程 2022年 3月29日（火）～31日（木）

訪問先 15件

県・市町村	訪 問 先
【岩手県】 住田町	特別養護老人ホーム すみた荘
【宮城県】 気仙沼市	山田大名の里
	一景島在宅介護支援センター（居宅）
	気仙沼市役所 高齢介護課
	中央地域包括支援センター
	気仙沼市保健福祉部 社会福祉課 生活保護係
	大縁ケアセンター
	避難入所者家族面談1
	避難入所者家族面談2
	気仙沼市立病院
	津谷居宅介護支援事業所
	本吉地域包括支援センター
	気仙沼市立本吉病院
	介護老人保健施設 はまなすの丘
	元気仙沼市役所関係者宅

3 交流会の実施

1) 活動の概要

帰郷を望みながらそれが難しい避難入所者に対し、生活意欲の向上や故郷の情報（環境、施設、観光等）を得ることを目的に、被災地域で活動する団体と、オンラインまたは直接対面による交流会を企画・開催した。また、避難先である青森県弘前市での生活が豊かで心穏やかなものとなるよう、弘前市民との交流会も企画・実施した。

2) 実施状況

① ～避難先住民と交流しよう～オンラインコンサート

日 時	2021年7月30日（金）14:00～15:00
交流相手	弘前大学教育学部附属小学校吹奏楽団 児童14名
形 態	オンライン（コミュニケーションアプリLINEを利用）
参 加 者	避難入所者15名、一般（見学）10名
内 容	弘前市内で吹奏楽部や合唱部がある小中学校に出演を打診し、保護者の理解や外部者の出入り及び日程等交渉した結果、附属小学校吹奏楽団と行うこととなった。ただし保護者も交流内容を閲覧可能とすることが条件となったため、環境を整えた。当日、通信環境に難があったものの、児童による吹奏楽曲の演奏と会話を楽しんだ。児童の突発的な質問に対し、普段考えなかったようなことを考え、受け答える場面があった。児童が持つ独特のエネルギーに触発された様子であった。

このイベントは、令和3年度福島県
県外避難者帰還・生活再建支援補助金事業と Supported by 日本 THE NIPPON
財団 FOUNDATION
の助成を受け実施しております。

オンライン コンサート

7月30日（金）午後2時から

LINEを使って、オンラインでサマーコンサートをします。



参加方法

- ・吹奏楽団保護者とLINE友達でない場合
コンサート主催者を直接通知
おうちの人のスマホのカメラで右のQRコードを撮り取ってもらおう！
コンサート会場（グループLINE）に招待される。
- ・吹奏楽団保護者とLINE友達の場合
友達からコンサート会場（グループLINE）に招待してもらおう。

30分間になったらスマホにビデオ通話の
画面がくもるご心配ボタンをおす。
※コンサート開催中は、通話を切っても再び
参加ボタンを押せば見ることが出来ます。

コンサート会場（グループLINE）は
コンサート終了後24時間消滅します。

弘前大学教育学部附属小学校 吹奏楽団

主催：社会福祉法人 弘前豊徳会

◀学校に配布したチラシ

10人以上とオンラインでつながり試みは初
で通信の不安定さが予想されたことから、
LINE友達に限定した参加を促した。本
チラシはA4カラー100枚作成・配布し
たが、段階をふまねば参加ができない仕組
みとなっている。結果、学内の掲示・配布に
とどまり、見学として児童・保護者・大学生
が閲覧している。

▼ブログ記事（2021年8月2日掲載）

社会福祉法人 弘前豊徳会



弘前豊徳会 >

スタッフブログ

オンラインコンサートで被災地入居様を元気に！

2021.8.2 - [被災地支援活動・帰郷支援]

サンタハウス弘前では、東日本大震災被災地において施設入居が難しい高齢者を受け入れており、この10年の活動で延べ196名が避難入所しています。現在も岩手・宮城・福島より53名が弘前市で暮らしています。被災地支援活動の概要は[こちら](#)、被災地支援活動のブログは[こちら](#)をご覧ください。

7月30日（金）、被災地からの入居様を対象に、弘前市での生活をより豊かに過ごしていただけるよう、オンラインで交流会が行われました。

コロナ禍で直接のふれあいができないのは残念ですが、今回は、弘前大学教育学部附属小学校の吹奏楽団より児童14名が入居様に元気を届けました。



「ドレミの歌」など5曲が演奏されました。

福島にゆかりのある曲「星影のエール」も演奏されました。朝のテレビドラマの主題歌にもなっていたのでなんとなくわかる方もいたでしょうか。

交流では、児童が行ったことのない土地で暮らしてきた入居様に興味津々で、質問が次々でました。

「みなさんはどこから来ましたか？」「好きな食べ物は何ですか？」「好きな動物は何ですか？」

それに対して入居様より、「宮城県、気仙沼市ってところからです」「福島だよ」「好きな食べ物は

[Translate »](#)

魚」「好きな動物はトラ」と回答が！

「トラ」は意外な答えで児童から歓声があがりました。逆に「僕の好きな動物はハリネズミです！」と教え合いました。

児童がカメラの前で手をふると



入居者様もふり返してくれました。



児童のパワーをもらって活力がわく入居者様の姿を見ることができました。やはり子供たちの力はすごいです。

附属小学校吹奏楽団のみなさん、ありがとうございました。



※この事業は日本財団2021年度採択事業「岩手県・宮城県から避難入所した要介護高齢者の帰郷支援」と、令和3年度福島県外避難者帰還・生活再建支援補助金の採択事業「青森県弘前市の介護施設に避難入所した要介護者等に係る帰郷支援事業」によって開催されました。

※許可を得て撮影、掲載しています。プライバシーに配慮し、写真の一部を加工しています。

[Translate »](#)



② ～ふるさとの人と語り合おう～気仙沼市民のリモート交流会

日 時 2021年12月9日(木) 14:00～15:00

交流相手 一般社団法人 気仙沼市青年会議所 3名

気仙沼市移住・定住支援センターMINATO 1名

形 態 オンライン(web会議システムzoomを利用)

参 加 者 避難入所者10名(気仙沼市民)、職員4名

内 容 被災地から当法人施設に入居した方のうち約半数が宮城県気仙沼市からの入居であることから、気仙沼市民同士でオンライン交流会ができないか検討し、気仙沼の銀鱗太鼓を主宰する気仙沼青年会議所に問い合わせたところ、交流会開催の運びとなった。当日はメンバーがそろわず太鼓の披露とならなかったが、2020年気仙沼みなと祭りの動画についてzoom共有機能を用い、映像を再生していただいた。避難入所者は「昔この祭りに出たよ」と急に饒舌になり、気仙沼市で暮らしていた時のことを思い出した様子であった。また、気仙沼青年会議所の廣田理事長の祖父が元気仙沼市長 廣田

善兵衛氏であったこと、気仙沼市内の有名企業の現役員が青年会議所メンバーであることから、先代社長とのエピソードや昔その企業で働いていた知人の話などで会話が広がった。参加した避難入所者は「よく知っている会社だったし、地元のことをたくさん思い出した。昔の知り合いのことも今どうしているか知れた。まるで気仙沼に帰ったみたいだった」と感慨深い様子であったほか、MINATOの活動内容を知り「若い人が移住してがんばっているなら安心だ」と若者の活躍を歓迎した。

zoomは複数で共有すると40分が使用制限となるため、長時間の会話は出来なかったものの、非常に満足度の高い交流会となった。

本事業は、日本財団の2021年度助成事業の助成を受け「若手・中堅・高齢者から避難入所した要介護高齢者の帰郷支援事業」の一環で実施しております。

Supported by 日本 THE NIPPON 財団 FOUNDATION

ふるさとの人と語り合おう

～気仙沼市民のリモート交流会～

12月9日(木)
午後2時～

気仙沼青年会議所の若者5人が、まちの様子や、活動中の銀鱈太鼓の動画をさせていただきます。

青年会議所の方々は、サンタハウス弘前に入所したみなさんと会えることを楽しみにしています。

入所者はマスク着用、検温、手指消毒にご協力をお願いします。

一般社団法人気仙沼青年会議所は、青少年育成、まちづくり、おまつり運営などを盛り、気仙沼・南三陸の20～40歳がリーダーとして成長できる場を提供しています。

社会福祉法人 弘前豊徳会
TEL 0172-99-1255
MAIL santa-h@richiwa.ocn.ne.jp
HP https://houtokukai.org/

Supported by 日本 THE NIPPON 財団 FOUNDATION

ふるさとの人と語り合おう

～気仙沼市民のリモート交流会～

12月9日(木)
午後2時～

出演者(予定)



ひろの いっせい
廣野 一誠
気仙沼青年会議所 理事長
アサヤ株式会社 代表取締役社長



さいとう だいご
斎藤 大悟
気仙沼青年会議所 副理事長
かねせん簿記 代表取締役社長



すづむら たけひろ
菅原 健浩
オートボディ菅原 代表取締役社長



かとう こうや
加藤 航也
気仙沼市移住・定住支援センター MINATO センター長
(稲井県出身、2015年気仙沼市移住)

▲施設内に配布・掲示したチラシ
A3カラー6枚、A4カラー10枚作成、ユニット内に掲示したほか、マスコミにも配布した。

▲参加者に配布したチラシ
交流相手のプロフィールを知っていただくとともに、視力が悪くテレビ画面が良く見えない方のための当日資料として、10部作成・配布した。交流会終了後、本資料を居室に持ち帰った避難入所者もいた。

▼ブログ記事（2021年12月10日掲載）

社会福祉法人 弘前豊徳会



弘前豊徳会 >

スタッフブログ

気仙沼青年会議所様と交流会【日本財団助成】

2021.12.10 - [イベント・被災地支援活動・帰郷支援]

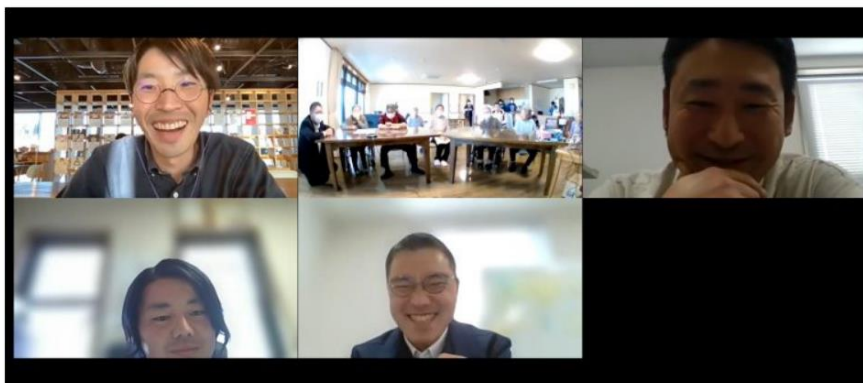
サントハウス弘前は、東日本大震災後、被災した地域にある施設に入所が困難な高齢者を受け入れています。この10年間の活動で、延べ200名がサントハウス弘前に避難入所し、現在も50名が暮らしています。避難された方の中で宮城県気仙沼市からの入居者様が一番多く、延べ76名、現在も24名が入所中です。当法人の被災地支援活動についてはこちらをご覧ください。

気仙沼市からの入居者様が地元を思い出すようなイベントができないかなあと、一般社団法人 気仙沼青年会議所に打診したところ、快く引き受けてくださり、12月9日(木)、zoomを使って交流会が開催されました。



気仙沼青年会議所の廣野一誠理事長はじめ、メンバーの斎藤大悟副理事長、菅原健浩様と、気仙沼市移住・定住センターMINATOの加藤航也センター長の、4名が交流会に参加してくださいました。

（写真上段左から加藤氏、サントハウス弘前入居者様、斎藤氏、下段左から菅原氏、廣野氏）



入居者様全員が廣野氏のひいおじいさん(廣野善兵衛元市長)をよくご存知で、「そういえばよく似てる」ととても親近感が湧いた様子。

[Translate »](#)

また、自己紹介でお勤めの会社も説明があり「ああ知ってる！」と、入居様が地元のことを思い出しながら合いの手を入れていました。



最初に、菅原様が2019年に行われた「みなとまつり」の動画を見せてくださいました。
動画を見て「昔、太鼓たたいて出たなあ」とボツリとつぶやく入居者様。



世間話が主となった交流会ですが、「震災後は空き地が今も多いですが、新しく公民館ができました。あと、市立病院が山の上に新しくできましたよ」「あのスーパーがなくなって、別のスーパーになりました」と頻りに情報交換がなされました。

「猪苗代病院がこの間11月いっぱいまで閉院して…」という話題では、「じゃああの先生はどうなったの？」と顔見知りの方の行方について、地元の人からのリアルな情報を知りたいがり、興味が次々湧いてきます。



名残惜しいですが約40分、話が尽きず盛り上がった交流会でした。

「楽しかった。みんなイケメンだった」「震災のあとは大変だったけど、よそから来て頑張ってる人もいるんだねえ」「まるで気仙沼に帰ったみたいな気持ちになった」「かねさんの蒲鉾（斎藤様の会社）が食べたくなった」…と、こんなに感想が出る交流会もなかなかないですね。楽しんでもらえてよかったです。

協力くださった気仙沼青年会議所の廣野理事長はじめメンバーの皆様、気仙沼市移住・定住センターの加藤様、誠にありがとうございました。

※この交流会は、日本財団の2021年度助成事業の助成を受け、「岩手県・宮城県から避難入所した要介護高齢者の帰郷支援事業」の一環で実施されました。

[Translate »](#)

河 北 新 報
2021年(令和3年)12月15日(水曜日)

弘前：老健施設の入所者

オンラインで里帰り

弘前市の老人保健施設「サンタハウス弘前」で9日、東日本大震災で被災した気仙沼市からの入所者ら9人が、古里の若者とオンラインで交流した。

◇

気仙沼側は気仙沼青年会議所のメンバーら4人が参加。2年前の夏に開催された気仙沼みなとまつりの映像を流し、市内の近況も伝

あすへ
東日本大震災

気仙沼の若者と交流

えた。

船上で七福神のねぶたを背に太鼓演奏する「海上うんづら」や打ち上げ花火の様子に、入所者らは懐かしそうに見入った。病院やスパーの閉業などを知ると「信じられない!」と声が上がった。

入所者の千葉ツヤ子さん(90)は「故郷の人たちと会話でき、気仙沼に帰ったような気分。またやってほしい」と笑顔だった。

サンタハウスは震災後、津波や福島第1原発事故の被災地から延べ約200人の要介護者を受け入れ、現在も気仙沼からの24人を含む50人が入所する。



気仙沼みなとまつりの映像に見入るサンタハウス弘前の入所者

河北新報社提供

気仙沼故郷に思い

入居者がリモート交流

サントハウス
弘前

弘前

東日本大震災で被災した要介護高齢者らを受け入れてきた弘前市の社会福祉法人・弘前豊徳会が9日、同法人の介護施設「サントハウス弘前」で、ウェブ会議システム「Zoom（ズーム）」を使った「ふるさとの人と語り合おう」気仙沼市民のリモート交流会を開催した。参加者は、この10年で変化した宮城県気仙沼市の様子を聞くなどして故郷に思いをはせた。同法人は2011年4月以降、岩手、宮城、福島



3県から201人を受け入れてきた。18年からは帰郷支援事業にも注力し、福島県からの入居者が相馬市と

リモートでクッキングを楽しむ交流会を開くなどしてきた。他2県の入居者にも故郷の人と触れ合ってもらいたいと交流会を企画。日本財団から「岩手県・宮城県から避難入所した要介護高齢者の帰郷支援事業」の採択を受け、

気仙沼青年会議所（廣野一誠理事長）の協力で実施した。

気仙沼市からの入居者ら9人が参加。廣野理事長が用意した「気仙沼みなとま交流会で気仙沼みなとまの映像を楽しむ入居者ら」（弘前豊徳会提供）

つり」の映像を見たほか、離島・大島と本土をつなぐ「気仙沼大島大橋」の開通、同市の民間医療機関で病床数が最多だった猪苗代病院が11月に閉院したことなど街の変化を聞き、驚き「い」と笑顔を見せた。

の声を上げる場面もあった。参加した千葉ツヤ子さん（90）は「とても懐かしく、気仙沼に帰ったような気分になった。またやってほしい」と笑顔を見せた。

陸奥新報社提供

③～ふるさとの人と交流しよう～チンドン寺町一座がやってくる！

日 時 2021年 9月20日(月) 13:30～16:30(延期)

2021年12月18日(土) 15:00～16:00

交流相手 チンドン寺町一座(大船渡市)

形 態 対面

参加者 避難入所者40名(うち福島県民10名)、職員10名

内 容 被災地から当法人施設に入居されている方のうち約2割が岩手県大船渡市からの避難入所者であることから、大船渡市を活動拠点とした名物や団体を探したところ、チンドン寺町一座を大船渡市観光課から紹介いただいた。折しも、避難入所者から交流相手に関する聞き取りを行っており、要望が最も強かった団体であった。

当初、オンラインによるイベントを企画していたが、チンドン寺町一座の鈴木座長から「オンラインだと鈴の音が聞こえない」「臨場感がない」「直接対面して音を届けたい」との要望を受け、9月開催として屋外での対面式交流会を計画した。ところが、東京オリンピック開催後、新型コロナウイルス感染症の急速な拡大により青森県独自の「青森県新型コロナウイルス感染症緊急対策パッケージ」が発令され、県内における全イベントの自粛が要請されたため、延期となった。

◀施設内に配布・掲示したチラシ

A3カラー20枚作成。他事業所の利用者にも楽しんでいただこうと3事業所に配布したが、延期となった。

そのまま冬期に突入し、室内での実施を検討したものの、当法人において家族面会は15分以内、2名までという制限がなされており、対

- ・参加者と職員はマスク着用、検温、手指消毒を徹底して行い、観覧席は前後左右1m以上の間隔をあける
- ・演者と観覧席の間は2m以上間隔を設ける。歌唱がある場合は5m以上設けるほか、アクリル遮蔽板の設置等、複数の手法を組み合わせた対策を求める
- ・当初（9月）他事業所利用者の参加も認めていたが、室内イベントにおいては人数制限のため断る

音の迫力もさることながら、寝たきりの方も手拍子をし始め、大船渡市民ならばだれでも馴染みのある曲が流れると、自然に体が動く様子で手踊りが始まり、入所者の「生きる力」が引き出されたように感じられた。ふるさとの言葉に直接触れ、かつて暮らした場所を思い出してつながりを実感した方も多かったと思われる。

◀配布・掲示したチラシ

A3カラー10枚、A4カラー10枚
作成、玄関、1階エレベーター前、各コ
ニットに掲示。マスコミ及び職員に配
布。



▼ブログ記事（2021年12月20日掲載）

社会福祉法人 弘前豊徳会



弘前豊徳会 >

スタッフブログ

ふるさとの人と交流しよう～福島ゲスト、大船渡チンドン寺町一座との交流会～

2021.12.20 - [イベント・被災地支援活動・帰郷支援]

サンタハウス弘前は、東日本大震災以来、被災地域の施設に入所が困難な高齢者を受け入れており、この10年で岩手・宮城・福島から延べ200名を受け入れ、現在も50名がサンタハウス弘前で暮らしています。長期間帰れない事態が続いたことから、2018年から故郷に近い市町村へ入居者様を帰すための「帰郷支援事業」も始まり、数名が帰郷した例もありましたが、地域によっては地元施設は空きがなく、またコロナ禍で移動も難しくなっています。

福島県からの入居者様は以前から福島の方とオンラインなどで交流会を開催していましたが、今年度は、岩手・宮城の方にも地元の人との交流ができないか模索したところ、日本財団の助成を受け、先日、気仙沼市在住の若者と交流会を開催することができました。他にも、避難元地域住民との交流を目指した弘前市内の小学校児童とのオンラインコンサートなども実施しています。

感染症対策による制限も少しずつ緩んできたところで、12月18日(土)、直接ふるさとの人と対面する機会を作りました。

福島県から福祉関係者3名を、岩手県大船渡市からチンドン寺町一座をご招待しました。

前半は福島県からのゲスト3名による、福島交流会を実施。

福島民謡「相馬流れ山」とともにゲストが「出陣」。



3名は福島県相馬市・南相馬市でケアマネや介護施設の理事長等を務めていらっしゃいます。

[Translate »](#)

この衣装は、福島県相馬地方で行われる祭典「野馬追」で使用されるものです。野馬追の説明とともに、相馬地方の民謡「相馬盆唄」盆踊りを披露。被災地からの入居者様も一緒に踊りました。



また、「この機会に故郷の様子を聞いてみましょう」と投げかけると、入居者様から「原町はどうになりました?」「鹿島は何か変わりましたか」と質問が次々飛んできます。ふるさとの様子を直接聞くことができ、入居者様も望郷の念が強くなった様子です。



最後に「これからも元気でいてください。ふるさともだいぶ変わりましたが、戻って来られるのを楽しみにしています」と相馬名物みそまんじゅうのお土産が手渡されました。

[Translate »](#)



交流会の後半は岩手県大船渡市から、チンドン寺町一座による公演です。
 一座は、チンドンコンクールや全国チンドン競演会などで6回優勝している実力派。「生涯現役」を合言葉に活動されています。入居者様は一座のことをよくご存知で、来訪を楽しみにされていました。



登場とともに大きな拍手！
 太鼓と鐘が特徴的ですが、サクソとクラリネット、ギターも賑やかに、なつかしい曲が演奏されます。若いスタッフは千昌夫「北国の春」しか知っている曲がなかったようですが、軽快な口上と心に響く音楽に、手拍子とリズムが止まりません。
 大船渡で結婚式などでよく歌われるという「祝い唄」というのでしょうか。その曲が大黒様の手踊りとともに流れた時は、入居者様も体が自然に動いたようで、本当に楽しそうに踊っていらっしゃいました。

[Translate »](#)



20曲くらい演奏していただいたのでしょうか。ずっと盛り上がりっぱなしです。腕も上がりっぱなしです。



感動してずっと泣いていた方、足も使って手拍子されていた方、驚いたことに寝たきりの方も手拍子されていました。

入居者様にとっては懐かしい音だったことでしょう。我々チンドンになじみのない弘前のスタッフでも、演奏の圧倒的なパワーに太平洋の海の音が聞こえるかのような感覚を覚えました。

外部から人を呼んでイベントを行うのは実に2年ぶりということもありましたが、入居者様はゲストの来訪を心から楽しみ喜びました。

※福島交流会は「令和3年度福島県県外避難者帰還・生活再建支援補助金」採択事業の一環で実施されました。

※チンドン寺町一座公演は2021年度日本財団事業の助成を受け「岩手県・宮城県から避難入所した要介護高齢者の帰郷支援」の一環で実施されました。

※イベントはステージと客席を2m以上あけ、十分な換気と間隔の確保をしたうえで実施されました。

※プライバシーに配慮し一部写真を加工しています。

[Translate »](#)

▼新聞記事（河北新報 2021年12月19日掲載）

弘前 2021年(令和3年)12月19日(日曜日)

演芸通じ古里思う

弘前老健施設で交流会

弘前市の老人保健施設「サタハウス弘前」で18日、東日本大震災で被災した岩手、宮城、福島3県の入所者に古里を懐かしんでもらうイベントがあった。大船渡市のちんどんグループ「寺町一座」などが演芸を披露し、会場を盛り上げた。

寺町一座のメンバーが、陸前高田出身の千昌夫さんが歌った「北国の春」など14曲を披露し、太鼓や管楽器の明るい音色を響かせた。相馬市の介護・福祉関係者らは、民謡「相馬盆唄」に合わせて入所者と一緒に盆踊りを踊った。

南相馬市で暮らしていた入所者渡辺忠良さん(70)は「懐かしい響きを楽しんでいる。」「懐かしい響きを楽しんでいる。」「懐かしい響きを楽しんでいる。」と喜んでいる。

サタハウスは震災後、被災地から延べ約200人の要介護者を受け入れ、現在も50人が施設で暮らしている。



入所者を楽しませた寺町一座

河北新報社提供

▼新聞記事（東奥日報 2021年12月28日掲載）

東奥日報 2021年(令和3年)12月28日 火曜日

古里復興 実感に喜び

弘前 東日本大震災で被災した岩手、宮城、福島の3県から、入居者を受け入れている弘前市の介護施設「サタハウス弘前」は18日、岩手・福島両県のちんどん屋や福祉関係者を招き、交流会を開いた。約30人の入居者は、被災地の復興状況を尋ねたり、曲に合わせて体を動かすなどして楽しい時間を過ごした。

（吉田希登）



「チンドン寺町一座」の演奏に合わせて体を動かすサタハウス弘前入居者たち

被災3県の施設入居者交流会

岩手県大船渡市のちんどん屋グループ「寺町一座」（菊乃家鈴丸座長）が同県出身の歌手千昌夫さんの「北国の春」など14曲を披露。入居者たちは手拍子をしながら楽しんでいた。

福島県相馬市からは、同施設と以前から交流のあった福祉関係者の3人が伝統行事・相馬野馬追の格好で訪れた。入居者から復興状況を尋ねられると、「高遠道路や野球場が新しくなった。港は盛り直しているところ」と現状を伝えました。

関係者ら慰問

福島県南相馬市に住んでいた渡辺忠良さん(70)は地元の復興状況を聞き、「帰っても前みたいな生活ができると思えた」、岩手県大船渡市に住んでいた新沼トシさん(84)は「一座の演奏を聴き、「おお、大船渡だな」と故郷を思い出した」と喜んでいた。

同施設は一般の入居者のほか、東日本大震災の影響で被災地の福祉施設が受け入れられなくなった約50人が暮らしている。

東奥日報社提供

東海新報

令和3年(2021年)12月31日(金曜日)

チンドン寺町一座が出演

青森の介護施設で催し 気仙出身の入所者も楽しむ

大船渡市日頃市町のチンドン寺町一座（鈴木正利座長）はこのほど、気仙両市を含む東北の被災3県から要介護者を受け入れている青森県弘前市の介護施設「サントハウス弘前」で開かれたイベントに出演し、軽快な口上とにぎやかな楽器の音色が織りなす楽しいひとときを入所者らに届けた。

同施設を運営する社会福祉法人・弘前豊徳会では、東日本大震災の被災地支援の一環として、地元の施設に入所できずにいる要介護者を受け入れてきた。現在も気仙出身の12人を含む51人が入所している。

今回は、新型コロナウイルスの感染防止対策を徹底したうえで、「ふるさとの人と交流しよう」と銘打ち、約2年ぶりとなる対面式のイベントを二つ併せて開催した。イベントには、チンドン寺町一座と福島県の福祉従事者がゲスト出演。気仙両市をはじめ、福島県相馬市、宮城県気仙沼市などからの入所者30人以上が参加した。

チンドン寺町一座は、陸前高田市出身の歌手・千昌夫さんの『北国の春』など、なじみのある14曲を披露。特徴的な太鼓と鐘に加えて、サックス、クラリネット、ギターの音色が響き渡った。

大黒様の手踊りに合わせて一緒に踊る入所者の姿も（サントハウス弘前提供）



東海新報社提供

福祉新聞 2022年（令和4年）1月18日

民謡に合わせて手踊りする入所者＝サンタハウス弘前提供

老人保健施設
サンタハウス弘前（青森）



青森県弘前市の老人保健施設「サンタハウス弘前」（社会福祉法人弘前豊徳会）は12月18日、東日本大震災から避難入所している高齢者が故郷の芸能を楽しむ、復興の様子も聞く交流会を開いた。コロナのためリモート開催が続いていたが、約2年ぶりに対面で実施した。会場は盛り上がり、感動して涙を流す入所者もいた。

同施設は岩手、宮城、福島、の被災3県から約11年間で延べ2022人の高齢者を受け入れ、現在も51人が暮らしている。交流会は4年前に帰郷支援の一環で始めた。この日は31人の入所者が参加した。交流会の前半では、福島県

高齢者、故郷懐かしむ

東日本大震災で避難

相馬市の福祉関係者3人が、民謡を披露した愛澤俊行・国の重要無形民俗文化財に指定されている地元の祭典「相馬野馬追」の甲冑、兜姿で登場し、「相馬野馬追」を面白おかしく紹介。民謡「相馬流れ山」「相馬盆唄」も披露し、入所者みんなで手踊りしながら楽しんだ。

入所者からは「あの商店街はどうなった？」「凍み天（南相馬市名物）は買える？」など地元民でないと分からない質問もあり、故郷をより近くに感じられた様子。入所者の男性は「若いころ野馬追に出陣していたので懐かしかった。手踊りで体を動かしながら楽しめてうれしかった」といと感じた」と話している。

（榎戸新）

福祉新聞社提供

④ ～避難先地元住民と交流しよう～オンラインコンサート

日 時 2021年6月（延期）
2022年1月22日（土）（中止）

交流相手 弘前市立第一中学校吹奏楽団の生徒

内 容 昨年度1月に実施した第一中学校吹奏楽部とのリモート交流会が好評だったことから、本年度は春の交流会として実施予定だったが、交渉がうまくいかず延期となった。次に計画された1月は、直前まで準備を進めたものの、感染症（オミクロン株）の急速拡大により2022年1月20日から弘前市独自の感染拡大防止対策が適用され、小中学校の部活動原則中止となったことに伴い、本交流会は中止となった。※その後、1月27日～3月21日まで、「まん延防止等重点措置」が弘前市に適用されている。



◀施設内に配布・掲示したチラシ

⑤ ～ふるさとの人と交流しよう～バルーンアートパフォーマンス～

日 時 2022年3月11日（金）14:00～15:00

交流相手 東北パフォーマンスネットワーク

形 態 オンライン（zoom）

参 加 者 避難入所者30名

内 容 東日本大震災から11年のこの日、避難入所者には未だ辛い記憶があり、なおかつ帰郷もままならない状況であるが、少しでも明るい気持ちでこの日を過ごしていただこうと企画・実施した。宮城県で

主に活動する大道芸人グループ「東北パフォーマンスネットワーク」に依頼したところ、被災地に縁のある芸人を紹介いただき、Monta氏、さとうゆみ氏の2名が出演。バルーンアートやジャグリングの披露と会話を楽しんだ。

また、本交流会の企画段階において、様々な団体と連絡を取り調整を行った結果、交流相手としてはイベントを行えなかったものの、当法人の取組を知った震災復興応援プロジェクト「つなげよう花の心実行委員会」から、被災地で生産された花を使ったアレンジメントが贈られた。黙とうの時間に添えられ、避難入所者の心の癒しとなった様子であった。

令和3年度「福島県県外避難者帰還・生活再建支援補助金」事業 日本財団 Supported by 日本 THE NIPPON FOUNDATION

このイベントは、令和3年度福島県県外避難者帰還・生活再建支援補助金と、2021年度日本財団の協賛を受けて実施しております。

ふるさとの人と交遊しよう

オンラインイベント

バルーンアートパフォーマンス

日時 3月11日(金) 午後2時から

場所 サンタハウス弘前 10号館
2階 2ユニット
3階 4ユニット
4階 6ユニット

出演者 東北パフォーマンスネットワーク
Monta (モンタ) さん
宮城県仙台市在住の大道芸人。テレビでも活躍しています。

さとうゆみさん
福島県白河市出身。パントマイムで世界で活躍中！今回はバルーンアートを披露。

東北で活躍する大道芸人さんのショーをみんなで楽しもう！

※新型コロナウイルスの状況により、開催出来ない場合は、開催方法を変更する可能性があります。

主催：社会福祉法人 弘前豊徳会

◀施設内に配布・掲示したチラシ

A3カラー6枚、A4カラー6枚作成。各ユニットに掲示。マスコミ及び職員に配布。



◀寄贈されたアレンジメント

計16個、各ユニットに1つずつと、花が好きな避難入所者10名に贈られた。

▼ブログ記事（2022年3月11日掲載）

社会福祉法人 弘前豊徳会



弘前豊徳会 >

スタッフブログ

震災から11年を偲び…オンライン交流会とお花の贈呈【日本財団助成】【福島県県外補助金】

2022.3.11 - [イベント・被災地支援活動・帰郷支援]

震災から11年を迎えた3月11日(金)。

サンタハウス弘前では、岩手・宮城・福島の被災地から避難した要介護高齢者の受入を、現在も続けています。

この11年で延べ200名以上を受け入れ、現在も51名がサンタハウス弘前で暮らしています。長い間ふるさとへの帰郷が難しい方のために、ふるさとの人との交流会や、弘前市民との交流会などを企画しています。

この日、「東北パフォーマンスネットワーク」とのオンライン交流会を行いました。

サンタハウス弘前10号館の2階、3階、4階から総勢40名の入居者様が参加。パフォーマンスを披露してくださったのは、仙台市在住のMontaさん（写真上段右）と福島県出身のさとうゆみさん(写真上段左)です。



画面上で、ジャグリングやバルーンアートを見せてくださいました。



Translate »

ゆみさんが作ってくれたバルーンは、なんと画面を超えて入居者様のもとへ！バルーンのお花やウサギが手元に来て嬉しそうです。



Montaさんも負けじと有名なネズミを作ってくれました！入居者様「ミッ●ーだ」「すごいねえ」これも画面を超えて入居者様に届きました。



また、震災復興を応援するプロジェクト「つなげよう花の心」から「入居者様の心の癒しになれば幸いです」と、福島県産のお花が贈られました。各ユニットに1鉢ずつ、そしてお花が好きな入居者様にもプレゼントされました。

Translate »



アンスリウム(川俣町) ユキヤナギ(須賀川市) ストック(会津坂下町)が使われているそうです。
お花が好きな入居者様も多いので、とても喜ばれました。

2時46分、黙とう。



何年経っても辛い記憶の日ではありますが、健やかに過ごしてほしいという願いが各地から届けられ、暖かい気持ちになった交流会でした。今も「時々思い出して悲しくなる」と仰る入居者様がいます。楽しい記憶を増やして、毎日が少しでも明るくなりますように。

※この交流会は2021年度日本財団助成、福島県県外避難者帰還・生活再建支援補助金の、両助成事業の一環で実施されました。

Translate »

▼新聞記事（東奥日報 2022年3月12日掲載）

東奥日報 2022年（令和4年）3月12日 土曜日

弘大や介護施設 オンライン追悼

弘前市では11日、被災地と交流を続けてきた弘前大学や介護施設「サントハウス弘前」で追悼式などが行われた。同市で新型コロナウイルスのまん延防止等重点措置が適用されていることから、いずれもオンラインで実施した。

弘前大学は2011年3月末にボランティア組織を設立、岩手県野田村と交流

を続けてきた。今年は弘大地域創生本部ボランティアセンターの李俊豪（リ・ジュンホ）長が村を訪れ、追悼式に出席。弘前市民ら約40人もオンラインで参加した。

同村の小田祐士村長は長年の支援に感謝しつつ「今後も弘前とのつながりを大事にしたい」と画面越しにあいさつ。李センター長も「今後も交流を続け村に寄り添いたい」と述べた。

サントハウス弘前は、岩手、宮城、福島3県から、地元施設への入所が困難な高齢者51人を受け入れている。午後2時40分、施設内で入所者40人が黙とうをささげた。黙とう前には、被災地にゆかりがある芸人2人によるパフォーマンスを画面越しに楽しんだ。施設担当者は「楽しい思いを分かち合えて、悲しみを一緒に乗り越えていきたい」と話した。（渡部雅士）

画面越しに、被災地にゆかりある芸人と交流する入所者＝サントハウス弘前（施設提供）

東奥日報社提供

▼新聞記事（陸奥新報 2022年3月12日掲載）

陸奥新報 2022年（令和4年）3月12日 （土曜日）

被災地大道芸人と交流 オンライン 避難入所の高齢者

東日本大震災で大きな被害を受けた岩手、宮城、福島の被災地から、地元施設への入所が困難な高齢者を受け入れている弘前市の社会福祉法人弘前豊徳会は11日、入所者と、被災地とゆかりのある大道芸人をつなぐオンライン交流会を開いた。

同法人の介護老人保健施設「サントハウス弘前」は、これまで被災地から200人を超える高齢者を受け入れて、現在51人が入所している。交流会では同施設で、被災地を訪問する活動を長年続けている「東北パフォー

マンスネットワーク」のMontaさん（仙台市在住）と、さとうゆみさん（福島県田代町）とを結び、ジャグリングのほかパルーンアートを楽しんだ。

パルーンアート作りでは、2人が画面越しに太やうさぎ、花やミットマウスなどを手早く作製。入所者は手拍子を送りながら完成を後押しした。

Montaさんは「少しでも楽しいことを、これまでさまざまな所を訪問させていた。笑って元気になる。いつか直接目の前で見ていたきたい」と呼び掛けた。（西尾英）

サントハウス弘前は、岩手、宮城、福島3県から要介護者を受け入れており、現在約50人が暮らしている。

陸奥新報社提供

▼新聞記事（河北新報 2022年3月13日掲載）

河北新報 2022年（令和4年）3月13日（日曜日）

被災のお年寄り 大道芸で楽しむ

弘前の老健施設「サントハウス弘前」は11日、被災地から避難したお年寄りを元気づけようと、弘前市の老人保健施設「サントハウス弘前」は11日、被災地からの大道芸人とのオンライン交流会を開いた。

「東北パフォーマンスネットワーク」のMontaさん（仙台市）と、さとうゆみさん（白河市）が出演し、ジャグリングやパルーンアートを披露。約20人が華麗な技を披露した。

福島県いわき市のアンリウムなど同県産の花を使ったフラワーアレンジメントも贈られた。

入所者の岩淵ゆめさん（77）は「仙台市には3月11日限らず、今も震災直後のことをよく思い出します。（パフォーマンスは）すごい腕前で感心しました」と話した。

サントハウス弘前は震災直後から岩手、宮城、福島3県から要介護者を受け入れており、現在約50人が暮らしている。

河北新報社提供

4 面会・面談の実施

1) 活動の概要

コロナ禍における面会は、原則禁止となっている。新型コロナウイルス感染症流行当初は、特に県外からの面会は厳しく制限しており、たとえ緊急時であっても容易にユニット（居住区）内へ立ち入りができない状態であった。これは2020年3月から、2022年3月現在も続いている。

事業実施期間中、一部面会制限の緩和がなされたものの（2021年11月～12月）、爆発的な感染者数の増となった時期（2022年1月～）においては再度制限を設けている。

この事態に対処するため、当法人は2020年10月からオンライン面会を開始。しかしこの方法は、ネット環境があり、かつデバイスの操作方法を理解できる者に限られた。当法人では施設内の所定の場所に端末を設置し、施設内と居室を結ぶオンライン面会も実施していたが、被災地からの避難入所者家族においては、青森県弘前市まで来所することも困難であり、ハードルが高い課題であった。

また、帰郷に際し、受入側施設が避難入所者の実態調査を行うことが困難で、これまでも被災地域の施設からは遠方であるとの理由で積極的に行われておらず、帰郷まであと一歩というところで活動が停滞していた。

奇しくもコロナ禍でネット環境が整い、被災地域の施設、事業所等と面談ができる環境が整いつつある。しかしながら、後述の「5事業の成果と課題」のとおり、帰郷支援自体が非常に不安定な状態であったことから、帰郷に係る面談実績は例年より少ない1件となっている。

本助成を受け、遠方でも容易に面会・面談できる端末を整備した。面会・面談、交流会が重なることを考慮し4台が整備された。

デバイスの整備



2) 実施状況

① オンライン面会・面談の実施実績

	岩手県	宮城県	うち面談件数
4月	2件	1件	
5月	8件	3件	
6月	10件	2件	
7月	4件	2件	
8月	4件	1件	
9月	2件	1件	
10月	4件	2件	
11月	4件	3件	
12月	2件	3件	
1月	1件	0件	
2月	0件	0件	
3月	1件	0件	(1件)
計	42件	18件	(1件)

なお、2021年10月～12月の約3カ月、流行の収まりが見られたため面会制限が一部解除されている。面会可能な方は

- ・まん延防止等重点措置地域にお住まいでない方
- ・ワクチン2回接種済みで2週間経過した方

をすべて満たす方であり、1回15分以内、2名以内で面会できるとされていた。12月には感染対策マニュアルのさらなる改定を経て、面会時間が30分以内にまで緩和された。この時期、法人全体では直接面会の回数が増え、オンライン面会の回数が減少している。

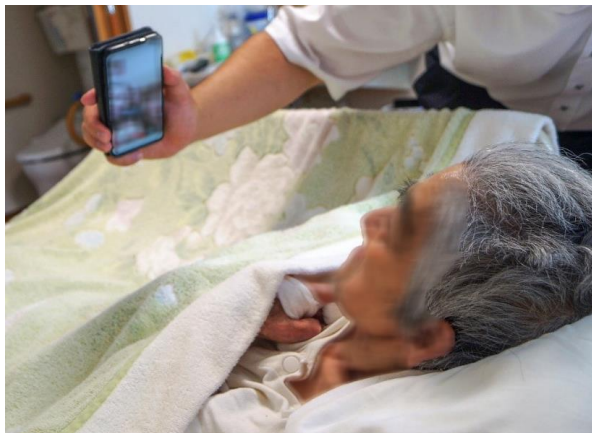
2月は、面談先の施設が必要な職員を一カ所に集合させられないとしてオンライン上の面談を断られている。家族の面会希望については、家族側と当法人の被災地担当者とのスケジュールが合わず実施にいたらなかった。

ご家族が避難入所者に端末を持たせ、個々人でオンライン面会が行われたケースもあり、担当職員が対応した場合は実績としている。

② 実施状況写真抜粋（プライバシーに配慮し画像を一部加工）

2021年7月29日（木）

宮城県気仙沼市のご家族とオンライン面会（バースデー）



2022年1月13日（木）

宮城県気仙沼市のご家族とオンライン面会



2022年3月15日（火）

岩手県盛岡市保健福祉部、岩手県立大船渡病院とのオンライン面談



5 事業の成果と課題

1) 事業の柱に関する成果と課題

① 帰郷支援に関する資料の作成と課題

昨年度3名帰郷予定だったところ、コロナ禍の影響で、受入側施設より「事態が収まるまで越境を控えてほしい」と要望があり停滞していたところ、ようやく対応の緩和がなされ、冬から帰郷調整を始めたところであり、精力的に活動できる環境でなかったことは確かである。しかし、帰郷の選択肢を増やすための情報提供はできたのではないかと思われる。事業期間中に帰郷実績を作れてはいないが、本助成事業によって強固に被災地施設と繋がりを持つことができている。また事業パンフレット及びフェイスシートの使用は少ないものの、受入に関する情報提供と共有・収集はなされている。

避難入所者の動画資料は期間中1本作成され、1施設に情報提供がなされている。これは被災地域に暮らす家族にも提供され、普段の生活の様子を知ることができたと好評であった。残念ながら帰郷を目前にして逝去されており、帰郷実績とならなかった。

オンライン面会については、実際は機器の扱いは容易であるが、避難入所者家族の中には高齢のため機器を扱うことに抵抗を示す方が多く、機器を貸し出す環境（非常に簡単な機器説明書を含む）を整えたものの、事業実施期間中、レンタルの申し込みはなかった。

② 被災地訪問活動の成果と課題

計画段階においては2021年4月～2022年2月末までの間に8回の訪問を予定していたが、最終的には2022年3月末まで活動を行い、計15回実施となった。実施期間延長と回数増の経緯は以下の通り。

ア 活動開始予定は4月であったが、被災地域の施設と訪問時期を調整した結果、被災地訪問担当職員及び被災地域の施設職員と避難入所者のワクチン接種が完了した7月から被災地訪問活動を行うこととなり、時期が大幅にずれ込んだ。

イ 被災地域の医療・福祉の体制について、気仙地域（岩手県南東部と宮城県北東部の一帯）においては未だ施設や人材の不足が見られる。事業実施期間中、1件医療施設の閉院があり、入院者及び退院者の受皿について県外施設も含め情報提供する必要があった。当法人でも2名を受け入れた。

ウ これまでも度々行政の異動、新設等で職員の入れ替わりの年に、広域支援・連携の情報が引継ぎされていないケースが確認されていたが、コロナ禍で約半年間（2021年1月～6月）被災地訪問活動を行わなかった結果、縁が完全に切れてしまった団体があったことも重なり、新たな関係性作りのため頻繁な訪問が必要であった。

エ 交流会はオンライン開催を主と考えており、被災地に機材を設置運営するための専門職員の派遣を計画していたが、各団体においてオンライン環境が整備されていたこと、直接対面する交流も開催できたこと等から、結果的に本年度は派遣不要となったため、その分、被災地訪問の回数を増やすことが可能となった。

オ 被災地訪問は基本的に2泊3日の行程であるが、効率よく訪問を行うため、福島県も旅程に入れることにより、3日間で岩手県・宮城県・福島県の3県を廻ることとなった。福島県に赴く際は福島県県外補助金（※）を、岩手県・宮城県に赴く際は本助成と経費を分けることで、1回の訪問活動に係る経費が節減され、訪問回数の増が可能となった。

※令和3年度福島県県外避難者帰還・生活再建支援補助金

③ 交流会実施の成果と課題

計画段階では年4回を目標としており、時期は季節に応じ、おおよそ3ヶ月に1回を想定していたところ、春先はワクチン接種の完了を待たねばならず、夏季は感染爆発による延期を度々余儀なくされ、季節ごとの開催とはならなかった。職員の周囲に陽性者がいた場合、濃厚接触者でなくとも、避難入所者と接する職員以外がユニット（居住区）内へ立ち入ることを禁止しており、そういった場合は機材設置ができないため、オンライン上の開催ですら実施不可能であった。しかし、こういった中で事業期間中4回の交流会の実施ができたのは、本助成があったからこそと言える。

イベントにおける感染対策マニュアルの作成、医師・看護職員等、多職種を巻き込み意見交換をし、4回の開催、うち一度は対面によるイベントが実現されたことは、当法人にとって大きな前進であった。今後、コロナ禍でも対面でイベントができる足掛かりができたと言える。また、交流先団体についても、視野を拡げ福祉関係者に限らず様々な団体と連絡を取り合い、有意義な企画の提案ができた。

なお、2020年度までは、福島県の補助金で福島県からの避難入所者を対象に交流会を実施しており、岩手県・宮城県からの支援対象者には同様の

交流機会が提供できていなかった。また、帰還者（震災によって県外に避難し、その後帰還した福島県在住者のこと）との交流が必須で、被災地訪問担当職員が交流団体を選定していた結果、毎回同じ内容で同じ講師へ依頼しており、回を重ねる毎に質の良い交流会の開催が難しくなっていた。

今回、2021年度日本財団助成によって視野を広げて企画でき、各地で活躍する団体を支援対象者に紹介できただけでなく、当法人の取組を各地の団体にも広く周知できた。それは交流先団体向けアンケートの結果にも現れている。

現在もイベント実施は極力控える方針であるが、オンラインといえども人と人の繋がりがなければこのように開催はできなかった。交流会の機会を通して被災地と法人内外で繋がりを得、支援対象者とともに見識が広がったと感じている。助成完了後も様々な団体と繋がり、避難入所者の日常を彩ることに尽力したい。

④ 面会実施の成果と課題

面会の需要が見通せなかったため目標件数はあえて設定していなかったが、年間で15件ほどはレンタルの需要があるのではないかと経費を見込んでいた。しかし、被災地担当職員が以前より避難入所者家族とSNSで連絡を取っており、その延長線上で面会を実施していたため、本助成で整備した端末が2月まで使用されない事態となった。もちろん計画段階で端末が整備されることと、無料レンタルが可能であることは通達している。避難入所者と家族の面会は滞りなく行われていたが、被災地域に離れて暮らす高齢の家族にとっては、被災地担当職員が頼りとなるため、その他の職員でも面会機会の増対応を取ることができたにも関わらず、情報共有等が不足したことは反省点である。

2) 事業に関するアンケート

交流先の4団体27名に交流会に関するアンケートを、支援対象者39名に事業全体に関するアンケートを実施。結果は以下のとおりである。

なお、交流先団体によって、漢字をひらがなに、文章をわかりやすい表現に変える等変更を加えているが、集計に影響はないものとなっている。

① アンケート内容（交流先団体）

2021 年度日本財団助成
「岩手県・宮城県から避難入所した要介護高齢者の帰郷支援（covid19）」

交流会アンケート

このアンケートは、岩手県・宮城県から青森県弘前市(サンタハウス弘前)に避難した方との交流会について、ご意見をお伺いするものです。各設問の当てはまる項目に○をつけてください。

■基本的事項■あなたのことを教えてください。

_____ 県（ _____ 市） _____

■交流会について

○交流会はいかがでしたか

←良かった 悪かった→

1 2 3 4 5

○避難者がつながり作りや生きがいを持つために役立ったと思いますか

←思う 思わない→

1 2 3 4 5

○交流会でやったら良いと思うことがあれば教えてください（複数選択可）

岩手・宮城の食材を使ったイベント ・ 岩手・宮城ゆかりのイベントの開催 ・
ふるさとの人とのおしゃべり ・ その他（ _____ ）

○交流会や演奏の感想、その他ご意見・ご要望について、なんでもご記入ください。

② アンケート結果（交流先団体）

■回収率

アンケート配布数	27	100.0%
回収	27	

■基本事項

青森県弘前市	14	51.9%
岩手県大船渡市	7	25.9%
宮城県気仙沼市	4	14.8%
宮城県仙台市	1	3.7%
福島県白石市	1	3.7%

■交流会について

交流会はいかがでしたか

良かった 1	20	74.1%
2	6	22.2%
3	0	0.0%
4	1	3.7%
悪かった 5	0	0.0%

※注釈 4にチェックをつけた方は、交流会自体ではなく、自分のパフォーマンスに納得がいかなかったとのこと。また、2にチェックをつけた方の中には、オンライン上の交流では臨場感のなさや時間制限もあることから、物足りなさを感じ、対面であれば良かったと考えていることが伺える。

避難者がつながり作りや生きがいを持つために役立ったと思いますか

思う 1	15	55.6%
2	9	33.3%
3	2	7.4%
4	1	3.7%
思わない 5	0	0.0%

※注釈 8割が役立ったと回答しているものの、オンライン上では、つながり作りや生きがいとなっているかどうか、いま一つ訴えかける力が足りないと感じる参加者が少数であるが、ということが伺える。

交流会でやったら良いと思うこと（複数選択）

岩手・宮城の食材を使ったイベント	10	37.0%
岩手・宮城ゆかりのイベント	11	40.7%
ふるさとの人とおしゃべり	9	33.3%
その他	9	33.3%

*その他の内容

被災地以外のいろんな人にコンサートを聞いてもらいたい	5件
郷土芸能	
ふるさとの唄、芸能	
岩手・宮城の郷土芸能を定期的開催	
入居者のアンケート・要望等	

交流会の意見・感想・要望（自由記述）

27件

私はいろいろと電波があまりつながらなかったけど自分的にとっても良かった。
きんちょうしてまちがっちゃったところを直したいです。でも楽しく吹けました。
さいごまできちんとふくことができました。こんどは、もっとえがおで、楽しみたいです。
楽しくえんそうできてよかったと思いました
自分は、所々まちがえてしまったけれど、他の子がつないでくれてうれしかったです。
よかったところはえんそうしてよろこんでくれたこと。なおしたいことは、もう少しゆっくり大きな声ではなすこと。
ちょっと笑ってしまいそうになったから直したい
みんな楽しそうにできてよかった。
おとしよりの人たちがえがおで見てくれてうれしかった
こうれいしゃと仲よくできたのでよかったです
がくふをよんでいるとどこかわからなくなったからわかるようになりたい。
聞こえなかったけれど交流ができてよかった
おじいちゃんおばあちゃんと楽しむ事ができた
もう少しカメラになれたいです。
入所者のみなさんが涙を流して感激する人がいたり、喜んでいる様子が見られて良かったと思います。私たち地元の老人ホームでも一年に一回位はチンドン公演をしていたのですが、コロナ禍で二年位行けなかったら入所者の多数の人

がチンドン演奏を聞きたいという事で二年ぶりで公演に行ったら大変喜ばれたので、コロナ感染が終息したら定期的に（年に1回位は）入所者に見せられたら楽しみがある目標を持てて生きがいを感じられると思います。
チンドン演奏に皆様からの手拍子をいただき気持ち良く出来ました。
雪降りの予報で行程が心配されましたが、天候良く、私達を快く迎えていただいた皆様が演奏中手拍子をしたり、踊る様子をしたり楽しい一時が過ごせたことと思います。これからも元気にお過ごし下さるようお願いばかりです。又、お会いしましょう。
・ちんどん寺町一座の演奏を見聞きし、サンタハウスの利用者さんの笑顔が見れ真剣に見入っていたので良かったなあと思いました。 ・豪華なお昼ご馳走様です。美味しかったです。 ・職員の皆様お世話様です。
サンタハウスのホールは響が良くとても気持ち良く演奏出来ました。又、職員・利用者さんが一生懸命に盛上げて下さり感謝してます。又来たいですね。職員の皆様方の対応が最高に良かったです。
チンドン演奏はお年寄りに一番喜んでいただけるパフォーマンスだと思います。今後何度でもお伺いしますので呼んで下さい。東北では岩手の寺町一座、秋田、宮城にもプロのチンドン屋があります。北海道にも一団体ありますので、1～2団体で共演というのはいかがでしょうか。
私達もチンドンで全国の施設やイベントに参加して居ります。特に高齢者の方々は、とても懐かしいと喜んで頂いてもらい（車イスの方も泣き、笑い、体を動かします）その姿を見て自分たちも逆に元気をもらいます。 今回は入居者の皆さんも又スタッフの皆も一緒に楽しんで頂けたとの事、私達も呼んで頂いた事に感謝して居ります。又お会いできる日を楽しみにして居ります。大変お世話に成りました。ありがとうございます。
交流会自体については、とても良かったのですがオンラインでしたので設問については②と回答させていただきました。※注釈：交流会はいかがでしたかの設問 交流の中で気仙沼のことをたくさん話してくださる避難者の方がいましたので、話すことができ嬉しいんだろうなと感じました。 避難者の方が話したいと思う人を探してzoomで繋がることできれば、もっともっと喜んでくれるのではないかと思います。
当日は動画の音が出ず申し訳ありませんでした。 利用者様と話ができた事でこちら側が元気をいただけた交流会でした。イベントを企画してくださりありがとうございました。

この度は貴重な機会をいただき、ありがとうございました。 視察の受入でお話するようなオフィシャルな話をするよりも、地元民の目線で身近な話（病院やスーパー等）をする方が、参加者の方に喜んでいただけたような印象でした。また機会があれば協力させていただきたいと思います。
交流会について→少し短かったと思いました。 12月の会にご参加させていただきありがとうございました。 みなさんが気仙沼の地名、お祭り、共通の人のお話で盛り上がっているお姿がとても印象的でした。 前は30分と短かったので、あと15分長ければ参加されている皆さんの話しが聴けて良いのではないかと思います。 昔の話、そして今の気仙沼のお話をぜひまた届けられればと思います。
コロナ感染対策を講じた上での交流会の実施は大変な部分もあったと思います。ありがとうございました。 以前、別の高齢者施設に若い娘を連れていったときにとても喜ばれたことがありました。今後、状況がよくなったときには、子どもたちとの交流などがあってもいいかもしれません。
zoomを取り入れてるのはとても良いなと思いました。 また、バルーンプレゼントなどを企画してください。

③ アンケート内容（支援対象者）

2021年度日本財団助成事業

「岩手県・宮城県から避難入所した要介護高齢者の帰郷支援事業（covid19）」

事業に関するアンケート

このアンケートは、岩手県・宮城県から青森県弘前市にある社会福祉法人弘前豊徳会（以下「当法人」）運営施設に入居中の要支援・要介護者に、今年度実施した帰郷支援事業及び交流会について、ご意見をお伺いするものです。より良い支援を実施するために、ご協力お願い申し上げます。

1 基本事項

□には該当するものに☑を入れてください。

あなたのことを教えてください。

震災発生時の住所	☐ 岩手県	☐ 宮城県
現在の住所	☐ サンタハウス弘前	☐ 震災発生時と同じ
	☐ その他（ ）	
世帯の状況	☐ 単身	☐ 夫婦 ☐ 二世帯
避難生活において困っていることの有無	☐ 無	
	☐ 有（ある場合、下記困っていることの内容を選択）	
	☐ 日常生活上のサービス	☐ 職員に不満
	☐ 帰郷先の情報がないこと	☐ サンタハウスの医療体制
	☐ その他（ ）	

2 事業内容について

該当するものに☑を入れてください。

①交流会について

今年度は4回開催しています。楽しかった交流会はどれですか？ （複数回答可）	☐	7月30日（金） オンラインコンサート （附属小学校児童の演奏と会話をオンラインで楽しみました）	
	☐	12月9日（木） 気仙沼の若者と交流会 （青年会議所のメンバーとおしゃべりを楽しみました）	
	☐	12月18日（土） ふるさとの人と交流しよう～チンドン寺町一座～ （大船渡名物チンドン屋を楽しみました）	
	☐	3月11日（金） バルーンアートパフォーマンス （宮城県在住の大道芸人とのオンライン交流、パフォーマンス鑑賞）	
交流会で知りたかった情報はありますか？ （複数回答可）	☐	自宅や近所の様子	☐ 住んでいた街全体のこと
	☐	帰郷先施設の情報	☐ 離れて暮らす家族の様子
	☐	今住んでいる所（弘前市、サンタハウス）の情報	
	☐	その他（ ）	

交流会は、つながりやいきがいを持つために役立ちましたか？	☐ 役立った					
	☐ 役立たなかった					
交流会でやってほしいことがあれば教えてください。 (複数回答可)	☐ ふるさとの復興状況	☐ ふるさとの食べ物を食べたい				
	☐ ふるさとのイベントを見たい	☐ ふるさとの人と話したい				
	☐ 弘前の情報	☐ 弘前の食べ物を食べたい				
	☐ 弘前のイベントを見たい	☐ 弘前の人と話したい				
	☐ その他 ()					
②事業全体について サンタハウス弘前では、帰郷を望む方のために、故郷または故郷に近い地域の施設を探すため「帰郷支援」を行っています。活動の一環で交流会、面会などを行いました。						
本事業の中で有意義と思われる取組は何ですか？ (複数回答可)	☐ 被災地訪問活動	☐ 被災地訪問に係る動画資料の作成				
	☐ 交流会の開催	☐ 家族との面会				
帰郷に向けて知りたい情報はなんですか？ (複数回答可)	☐ 帰郷先施設の情報（医療・介護の体制）					
	☐ 具体的な帰郷の時期	☐ 帰郷の可能性の有無				
	☐ その他 ()					
今後、帰郷支援について望むことはありますか？ (複数回答可)	☐ 継続してほしい	☐ 終了しても良い				
	☐ 帰郷支援は終了、交流会は継続してほしい					
	☐ 交流会は終了、帰郷支援は継続してほしい					
	☐ その他 ()					
<table border="1"> <tr> <td>回答者(入居者様名)</td> <td></td> <td>代筆</td> <td>☐</td> </tr> </table>			回答者(入居者様名)		代筆	☐
回答者(入居者様名)		代筆	☐			
*職員または相談員の代筆による回答の場合、チェックを入れてください。						
アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。						
★アンケートの提出について						
アンケートは、法人本部（内線１８０）川村または信平まで提出してください。 または、まとめてあればユニットまで取りに伺います。						
提出期限		令和４年３月１８日（金）まで（厳守）				

④ アンケート結果（支援対象者）

■回収率

アンケート配布数	39	89.7%
回収	35	

※注釈 直筆が難しい方は職員が聞き取り、代筆している。アンケート未提出は寝たきりの方で、聞き取り不可であった。

■基本事項

震災発生時の住所

岩手県	12	34.3%
宮城県	22	62.9%
無回答	1	2.9%

現在の住所

サンタハウス弘前	26	74.3%
震災発生時と同じ	8	22.9%
その他	0	0.0%
無回答	1	2.9%

世帯の状況

単身	21	60.0%
夫婦	5	14.3%
二世帯	9	25.7%
無回答	0	0.0%

避難生活において困っていることの有無

無	25	71.4%
有	9	25.7%
無回答	1	2.9%

*有の場合（複数選択）

日常生活上のサービス	2	22.2%
職員に不満	2	22.2%
帰還先の情報がないこと	3	33.3%
サンタハウスの医療体制	0	0.0%
その他（自由記述）	3	33.3%

・おいしい物食べたい ・自由に外に出られない事 ・食べたい物と買いたい物の調達		
---	--	--

■事業内容について

1 交流会について

楽しかった交流会はどれですか？（複数回答可）

7月30日(金) オンラインコンサート	6	17.1%
12月 9日(木) 気仙沼の若者と交流会	7	20.0%
12月18日(土) チンドン寺町一座	18	51.4%
3月11日(金) バルーンアートパフォーマンス	21	60.0%
無回答	9	25.7%

※注釈 年度末にアンケートを実施しているため、記憶に新しいイベントの印象が強かったこと、参加者数の母数も違うため（7月…10、12月9日…10、18日…40、3月…40）結果として3月が一番人気となっているが、イベント終了直後の聞き取りにおいては、全員が「楽しかった」と述べており、どのイベントも満足度は高かったと言える。なお、無回答者はどのイベントにも参加しなかった方である。

交流会で知りたかった情報はありますか？（複数回答可）

自宅や近所の様子	15	50.0%
住んでいた街全体のこと	13	43.3%
帰郷先施設の情報	4	13.3%
離れて暮らす家族の様子	8	26.7%
今住んでいる所（弘前市、サンタハウス）の情報	1	3.3%
その他	2	6.7%
無回答	3	10.0%

*その他の回答

ない
特にはないです。帰るのは無理だと思っているから。

※注釈 イベントはイベントとして楽しみ、交流会を情報収集の場として考えていなかった可能性は高いが、一様に地元のことは気になっている様子が伺える。ふるさとをより感じられ、知りたいことを知ることができる内容のイベントも企画し、一人ひとりのニーズに応えていきたい。

交流会は、つながりや生きがいを持つために役立ちましたか？

役立った	25	71.4%
役立たなかった	1	2.9%
無回答	9	25.7%

※注釈 交流会自体の満足度が高いことが伺える。

交流会でやってほしいことがあれば教えてください。（複数回答可）

ふるさとの復興状況	14	40.0%
ふるさとの食べ物を食べたい	19	54.3%
ふるさとのイベントを見たい	10	28.6%
ふるさとの人と話したい	6	17.1%
弘前の情報	2	5.7%
弘前の食べ物を食べたい	1	2.9%
弘前のイベントを見たい	3	8.6%
弘前の人と話したい	1	2.9%
その他	3	8.6%
無回答	8	22.9%

*その他の回答

音楽（楽器や歌を聞きたい）
ものまねを見たい。
特にないです

※注釈 企画段階において、支援対象者とともにどのようなイベントが良いか聞き取っており、結果チンドン寺町一座の招待へとつながっているが、そもそも普段から祭りや音楽、歌の需要は大変高い。今回アンケートで改めて判明したことは、ふるさとの食べ物を食べたいという要望が大半を占めたことである。実際には嚙下しやすいペースト食やきざみ食の方も多いため、食材の選定は管理栄養士と共に行っていく必要があるが、食べる楽しみを企画する必要性もあると感じた。

2 事業全体について

本事業の中で有意義と思われる取組は何ですか？（複数回答可）

被災地訪問活動	7	20.0%
被災地訪問に係る動画資料の作成	3	8.6%
交流会の開催	15	42.9%

家族との面会	10	28.6%
無回答	8	22.9%

帰郷に向けて知りたい情報はなんですか？（複数回答可）

帰郷先施設の情報（医療・介護の体制）	11	31.4%
具体的な帰郷の時期	3	8.6%
帰郷の可能性の有無	12	34.3%
その他	4	11.4%
無回答	8	22.9%

*その他の回答

ない	4件
----	----

※注釈 帰郷先の情報、帰郷の可能性については、他の支援対象者への影響（自分も帰りたい等）も考慮し、直前まで知らせていない場合が多い。

今後、帰郷支援について望むことはありますか？（複数回答可）

継続してほしい	24	68.6%
終了しても良い	1	2.9%
帰郷支援は終了、交流会は継続してほしい	0	0.0%
交流会は終了、帰郷支援は継続してほしい	1	2.9%
その他	0	0.0%
無回答	9	25.7%

※注釈 被災地訪問活動への評価は20%と低めであるが、事業全体として高く評価され、約7割が継続希望となっている。終了しても良いまたは無回答者においては、ほぼ帰郷希望がない方が中心に回答されている。交流会の開催と家族との面会に対する要望は高く、帰郷に限らず、生活するうえで心の支えとなるものを欲していることが伺える。なるべく要望に応えていきたい。

お わ り に

被災地が復興都市として新しい施設の建設が進められ、スーパー堤防等も次々完成し、そして、新型コロナウイルス感染症の影響で、世の中の常識までもが大きく変わってしまった。ところが震災被害者においては「あの日」のまま時間が止まっている。当法人に入居されている高齢者は「今も思い出せば辛い」と語る一方、「海が見たい」「故郷に帰りたい」と吐露されている。

たとえ帰郷が厳しい状態であっても、いつまでも安心して入所できる、自宅と同じような居場所を提供することも、当法人が同時に目指してきたことである。10年以上被災地支援に関わってきたからこそ、これからは、被災地域の行政・団体が自らの力で解決へと導けるよう、社会福祉法人として、支援が必要な方に手を差し伸べていきたいと考える。

2021年度日本財団助成

岩手県・宮城県から避難入所した高齢者の帰郷支援（covid19）
活動報告書

発 行 2022年4月

責任者 社会福祉法人 弘前豊徳会

〒036-8311

青森県弘前市大字大川字中桜川18番地10

TEL 0172-99-1255

FAX 0172-99-1256

MAIL santa-h@chive.ocn.ne.jp

H P <https://houtokukai.org/>